

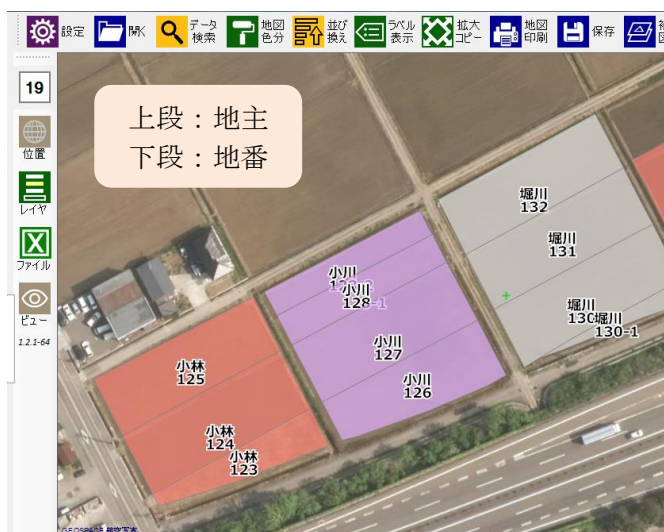
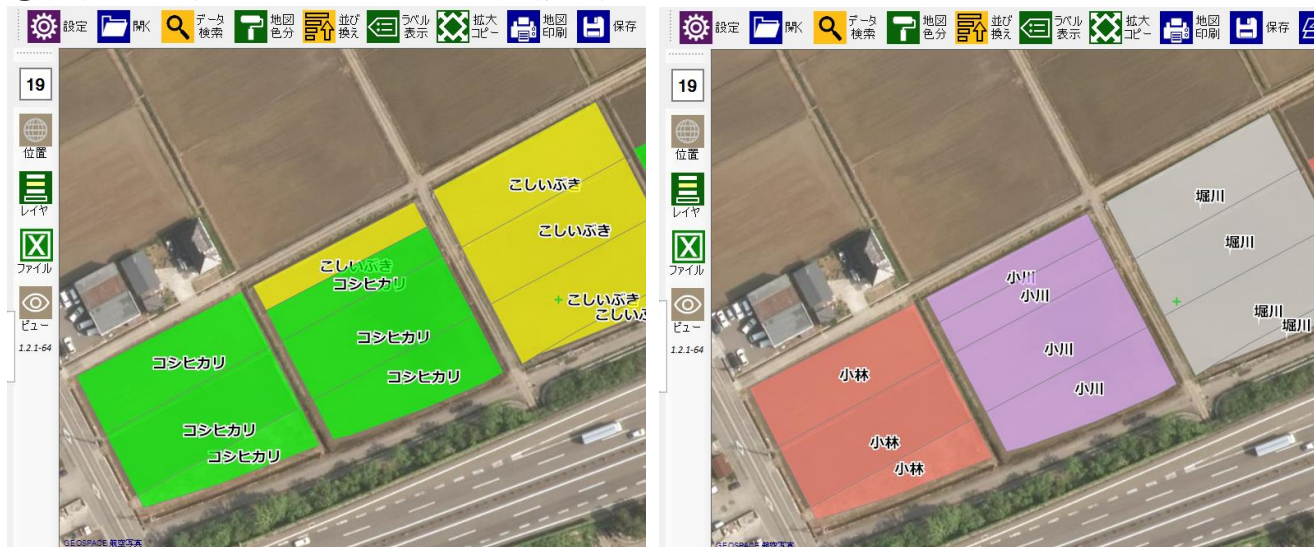
Z-GISを使った圃場管理のご提案

Z-GISは、全農が開発した圃場管理を効率化するクラウド型の営農管理システムです。エクセルに入力した情報を地図上に表示できるため、これまでのように白地図に手書きをする手間や、修正することにも手間がかかりません。

また、データはクラウド上に保存されるため、スマホやタブレットでどこでも確認でき、複数名で情報を共有することが可能です。

今回は、Z-GISの活用事例を紹介します。

①作付品種や地主、地番などの情報を表示

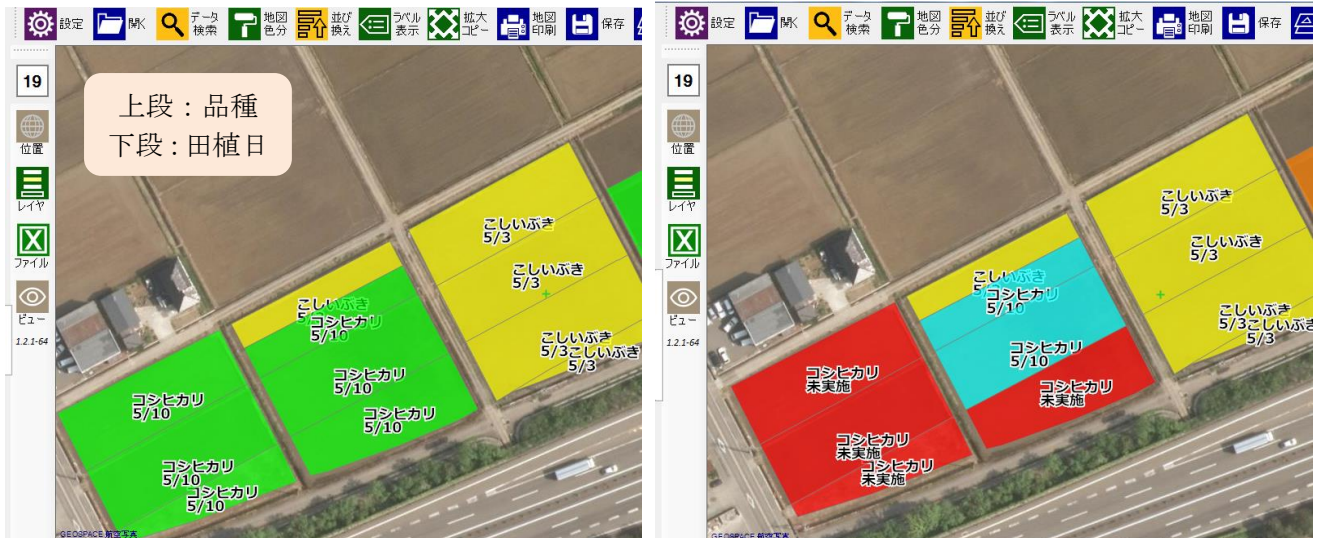


自分の必要な情報を自由に表示でき、色分けも簡単にできます。また、左の図のように2つの情報を同時に表示させることも可能です。

(最大3つの情報を表示可能)

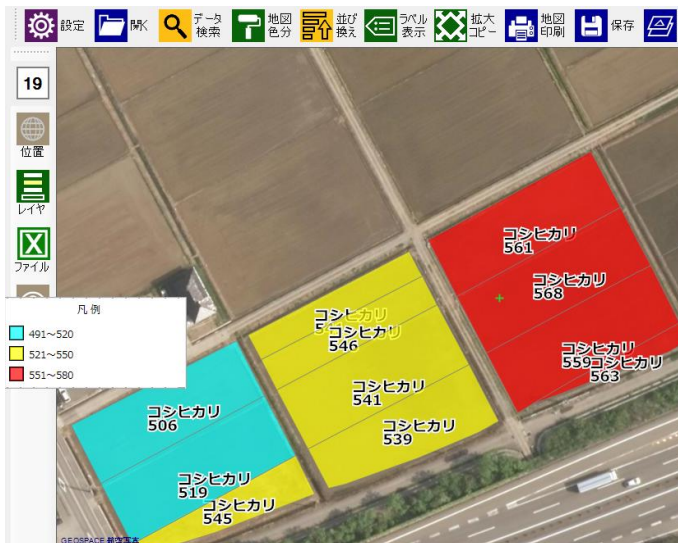


②作業日を表示



作業日や作業予定日を表示させたり、作業が済んだ圃場とこれから作業をする圃場を区別することができます。

③収量を表示



収量を測定する機能の付いたコンバインで圃場ごとの収量が把握できる場合、多収圃場と低収圃場で色分けすることで、視覚的に傾向を把握することができ、翌年の作付け計画や施肥設計に役立てることも可能です。



利用料金は、100圃場ごとに月額200円です。

ご利用の際は、<https://z-gis.net/99/index.html> または、「Z-GIS」で検索し、ダウンロードしてください。

お試しIDで31日間無料で使用することもできます！

31年作が始まる前に、是非、一度お試しください！圃場の登録が必要となりますので、冬場の登録をおすすめします！

(JA全農にいがた 担い手・営農支援課)